

研修成果  
発表会

# 上旬大熊組 A班

- 松丸乃南
- 黒田悠太
- 三戸真幸
- 迫田わかな
- 梶山和希(Tu)

# 発表の流れ

- 研修での経験
- 親・友人等の反応予想の推移
- 現地の人々の反応予想の推移
- おまけ
- 共有する際の注意点
- 研修会を通してのイメージ変化

1日目  
オリエンテーション  
議論





2日目  
試料採取  
試料整理  
議論







3日目  
中間貯蔵施設視察  
1F視察  
基準値講座





4日目  
試料採集  
試料整理





5日目  
測定  
交流

6日目  
議論  
帰路





# 親・友人等の反応予想の推移

---

- その日の体験や知見を親・友人に共有した際の反応予想の推移
- 一日ごとに予想
- 自分たちの感想を反映している面も

9月3日  
(1日目)

単純な興味  
漠然な不安  
遠いもの

1. 家族, 友人
2. 福島ってぜんぜんかんじ?  
何したの?  
安全?

1. 友人
2. 放射線は  
大丈夫?



9月4日

(2日目)

## 帰宅困難地域の 興味と疑問

1. 親

2. 帰宅困難地域

って入れるんだ...?

1 親・友人

2 帰還困難などで

まだ自分の家に戻っていない

人がいるんだ。

9月6日

(4日目)

1 親・友人

2. 「原発の中で

るんだ...？」

原発の興味と疑問  
復興や除染  
の地域差

1. 親・友人

2. 本当に原発は数値  
が高いいんだね

(場所によって数値がちがう)

2. まだまだ復興は

進んでないわ。



9月7日  
(5日目)

1. 友人
2. 複雑な気持ち  
だね...

1. 親
2. 現実味が  
あるね~

1. 親
2. 「理屈だけじゃない  
感情が福島の人  
にはあるんだね」



# 現地の人々の反応

1日目

漠然としていて、  
誰でも思いっつけそう

2日目

共感の始まり

4日目

原発にポジティブな  
イメージを抱く

9/3

- 1. 外国人
- 2. 福島って行っていいの?

現地の人に対して...  
その人の境遇をみる  
被災地扱いしすぎない

- 1. 現地の人
- 2. 福島以外の観光地を  
オススメする  
福島のことについて勉強  
したことを喜ぶもうえるかも

9/4

- 1. 家族
- 2. ほかの人と同じ場所に行けて  
貴重経験  
放射線の怖さはどのくらい?

- 1. 親、友人
- 2. 帰宅困難区域の  
中はどうなっていた?

- 1. 再ハ同、鉄研の友人
- 2. 福島... 今  
来年は行く

- 1. 友人
- 2. ハーローちゃんだ

- 1. 帰宅困難区域に住んでいた人
- 2. いつ帰れるのか...?  
いつ農業を再開できるのか?

9/6

- 1. はだしのクマを見た  
直後の自分
- 2. 放射線こわい

- 1. 友人
- 2. またまた「復興は  
進んでないわ。」

- 1. 原発の人
- 2. 「原発は反対だ!!!」

- 1. 過去の自分
- 2. 2014年って  
どのくらい

- 1. 原発で働いている人
- 2. 毎日働いてるけど大丈夫だよ?





## 5日目

現地の人の実際の反応

今後の大熊町の発展・復興についての  
考えや実体験、実状、そして、  
とにかくたくさんの人にどんな形でも  
大熊のことを伝えてほしいという  
思い

9/7

1 大熊町

2 金を失ったからこそ  
なんでもできる

1. 元住人

2. 町をどのようにするか  
どうしたいかは  
葛藤がある

1. 別の都市や国から来て  
大熊町に住み始めた人

2. 最近少しづつ栄えて  
くるらしい町だから  
たくさんの人に来てほしい

1. 事故当時大熊町に住んでいて  
戻ってきた人

2. 子どもはまだ生活が不便な上  
思い出したくないから  
戻りたくない

1 大熊町の人

2 ドクターヘリはやはり  
きちんとした病院をくれ

1. 移住した住民

2. 身元バシたかいいので  
支援が受けられたい

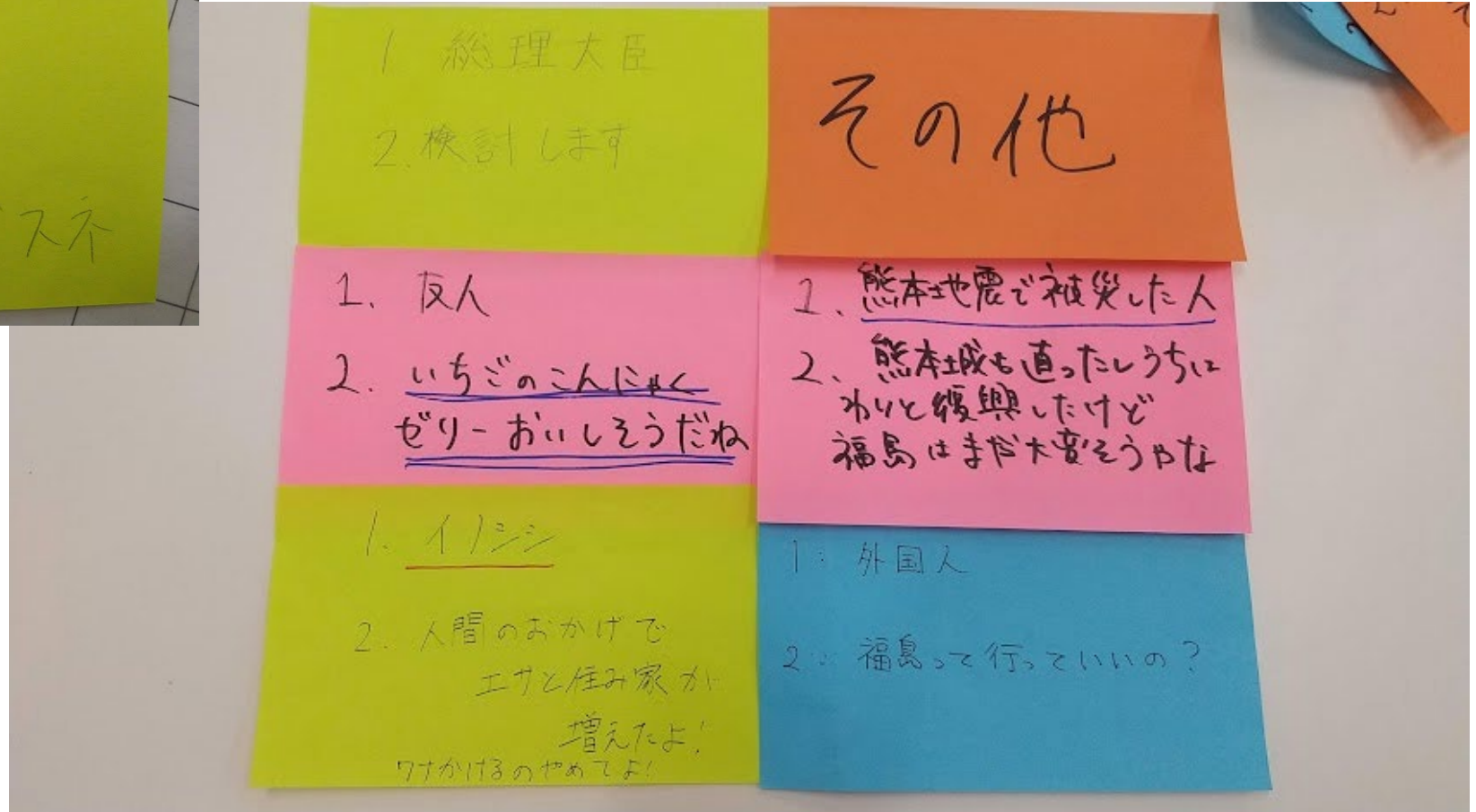
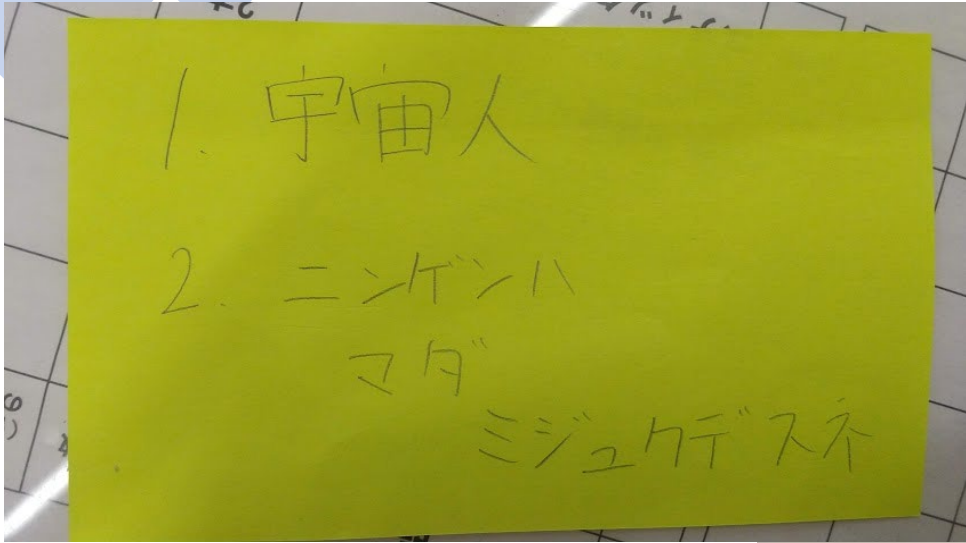
1 大熊町の人々

2 元の町に戻すというより  
Iからのスタート

1, 元住人(若い人)

2, 今の生活をすてられたい  
すててまで戻る意味ない  
子育て中なら行きたくないかも

# 例外枠





# 共有の際の注意点

---

伝えたいものによって注意すべきことが変わる

科学的知識なのか  
自分の経験なのか

# 科学的知識を伝えるとき

---

- ✓ わかりやすく
- ✓ まず興味を持ってもらう
  - 相手に合わせて柔軟に伝え方、内容を変える
- ✓ 事実と意見を区別する
- ✓ 伝える側のバイアス思い込みを事実として伝えない
  - 人によって変わる部分とそうでない部分がわかるように
- ✓ 相手の反応を尊重する

※浜通り研究会に参加する！



# 経験を伝えるとき

---

- ✓ 現地の方の声を伝える
  - いろいろな人に伝えたいと思ってお話してくださった  
広めていくべき
- ✓ 自分たち自身の福島への思い、知った情報を伝える
  - 自分たちが伝える意味
  - 伝えた相手に興味を持ってもらう
- ✓ 多様な意見を発信する
  - いろいろな面がある

# 研修会を通してのイメージ変化

---

- 復興
  - 元に戻す→1からスタートする、そうせざるを得ない
  - まだ進んでいない→地域差が非常に大きく一概には言えない
- 放射線
  - 危なそう→身近、適切に扱えば安全→リスクが大きい
- 福島
  - 防護服のイメージが強い 別世界感
  - 実際に大熊町やほかの市町村をみて親近感
- 帰還困難区域
  - 危険な地、すぐに離れないといけない
  - もともと人が住んでた地、気を付ければ入れる





ご清聴ありがとうございました

